

令和7年3月31日

大野城市共働事業提案制度
事業進捗状況資料

子どもたちの夢と希望を醸成する
子どもの居場所づくり事業
(令和6年度)

子どもの居場所づくり事業実行委員会

特定非営利活動法人チャイルドケアセンター
大野城市こども・若者政策課
(令和5年度採択事業)

目 次

1. 提案時の状況と課題

2. 事業目的

3. 共働の必要性（提案団体と市の強みと弱み）

4. 事業スキームと役割分担

5. 実績と成果

6. 翌年度の事業内容

7. 将来展望

8. その他アピールポイント

提案時以降原則変更しないもの

1. 提案時の状況と課題

(1) 解決する課題

①子どもの貧困問題

日本では、7人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれています。ただし、日本における「子どもの貧困」とは、「相対的貧困」のことを指します。毎日の衣食住に事欠く「絶対的貧困」とは異なりますが、相対的貧困状態にある子どもたちは、経済的困窮を背景に教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立し、大人になる成長過程の様々な面で不利な状況に置かれてしまう可能性があります。また、こうした世帯で育つ子どもは、医療や食事、学習、進学などの面で極めて不利な状況に置かれ、将来も貧困から抜け出せない傾向があることが明らかになりつつあり、子どもの貧困問題への対応は喫緊の課題です。

大野城市においても、市が2018年に実施したこども・若者に関するアンケート調査によれば、生活困難世帯（世帯人数ごとに基準額を設定し基準額を下回る世帯を対象）が、全体のうち4.7%でした。算出方法が異なるため単純比較はできませんが、2022年10月に実施したアンケート調査では、相対的貧困率は、乳幼児保護者世帯7.9%、学童保護者世帯8.2%、中学生保護者世帯9.8%となっています。

また家庭の状況において経済的理由による制限があったかどうかについては、乳幼児期を持つ家庭の13%、学童期の家庭の12%の家庭において、経済的理由のため必要なものが買えなかったとの回答が得られています。このようなことから大野城市においても子どもの貧困問題が顕在化しつつあることが分かります。

貧困から生じる問題には、まず、「経済的な困窮」、さらに、「つながりの希薄化（地域からの孤立）」があります。この二つは関連しており、その両方にアプローチできるのが「こども食堂」であると考えます。

②行政や支援組織の視点から見た「こども食堂」の課題

子どもの貧困対策について「こども食堂」を通してアプローチする上での課題としては、以下が考えられます。

- (ア) 市として、相談窓口を設置し対応する体制を整えているものの、行政に対する「心理的ハードル」が高く、なかなか相談窓口に来てもらえないため、本当に支援が必要な人へのアプローチが十分にはできていないこと（行政だけの支援の限界）
- (イ) 「こども食堂」による食事の提供だけで、経済的困窮者が抱える根本的な問題を解決することは難しいこと。また、経済的困窮者へどの程度アプ

ローチできているのか不明であること（NPO 法人だけでの支援の限界）

（ウ）現在「こども食堂」は、現在ほぼ区単位で開催されており、こども食堂の設置数は充足しているものの、開催回数が少ないところもあるため、回数を増やしたり、「安心できる居場所」として機能するよう、アットホームな雰囲気づくりを行ったり、学習支援などにより様々な学びや交流の機会づくりを行うなど、質的な向上が必要であること

（２）市民ニーズ

現代の家庭の抱える困難は経済的な困窮だけに限らず、多様化、複雑・深刻化しており、地域のつながりも希薄になる中で、安心して過ごせる居場所がなく、孤立してしまう子どもも少なくありません。

困難を抱える子どもたちが地域で孤立することなく、信頼できる大人や友達と安心して過ごし、将来の夢や希望の実現に向けて「生きていく力」を育む地域の居場所が必要と考えます。

また、子育て世帯の中には転勤等で本市へ転入し、実家が遠方であったり、近所に知り合いが少なかったりして、孤立感・孤独感を抱えながら育児をしている方もいます。

本市で暮らす親子にとっては、経済的困窮に対する支援に加えて、地域で孤立することなく子育てできるための「居場所」が必要です。「こども食堂」では、ただ空腹を満たすだけでなく、みんなで一緒に食べることの楽しさ、その時間、体験を提供することで、寂しさや孤立無援を感じていた親子の心も満たすことが必要とされていると考えます。

（３）課題解決の方策

「こども食堂」では、安心して過ごせる居場所で食事を提供することに加えて、それぞれの子どもに寄り添った大人の声掛けや見守りを通して、基本的な生活習慣を自然と身に付けさせ、様々な体験活動などの機会も子どもたちに提供する「居場所」としての機能を高めていきます。地域における「こども食堂」が担うべき役割として、地域の子どもたち、そして親たちが安心して過ごすことができ、困った時に、必要な支援を求める力（受援力）を高め、ひとり親家庭や生活困窮世帯の子どもに必要な支援が行き届くきっかけづくりを行います。

上記、（１）②（ア）に掲げたとおり、行政のみでの支援では限界はありますが、NPO団体のノウハウを活かしながら、「こども食堂」という直接、市民に触れ合える場で地域住民と協力し合うことで、支援に必要な子・親などと繋がるきっかけを作ることができます。また共働事業を通して情報を共有し合うことで、市は、庁内関係課と連携して重層的支援を行い、行政が市民に必要な支援を確実に届けられる仕組みづくりが可能となります。

2. 事業目的

子どもたちが、生まれ育った家庭の経済状況にかかわらず、将来の夢と希望を持ち、自立する力を伸ばすことのできる機会と環境を提供することは、私たち大人世代の責任です。

すべての子どもたちに、人や社会と関わる力、社会で自分らしく生き抜く力を伸ばす支援を行政、地域、NPO など市民の方々と共働で取り組み、「地域のみんなで子どもを守り、育てる社会」をつくることで、子どもの貧困問題の解消を目指していきます。

3. 共働の必要性

(1) 提案団体と市担当課の強みと弱み

	提案団体	市担当課
強み	<ul style="list-style-type: none">・柔軟性・専門性・現場の実態、ニーズを把握	<ul style="list-style-type: none">・市民サービス、行政サービス・信頼感・広報力
弱み	<ul style="list-style-type: none">・市民の個人情報不足・資金不足・不特定多数への広報力が不足	<ul style="list-style-type: none">・ハードル(敷居)が高い・機動性が乏しい(動きが鈍い)・こども食堂など現場のノウハウを持ち合わせていない

(2) 共働事業に至った経緯

行政と NPO の強みと弱みの考察から、地域の子どもたちと親の居場所としてのこども食堂、ひとり親家庭など生活に困窮する世帯への支援の拠点としたこども食堂づくりを行っていくためには、市政全般にわたる多様な施策との連携が不可欠であり、両者の長を補い合って事業を進めていくことが重要であると考えられます。

また、ひとり親家庭などへのダイレクトなアプローチは、NPO 法人単独では困難であり市との共働が必須です。あわせて地域の身近な居場所づくりのためには、公民館など公的施設との連携を図ることが重要であり、市の支援・協力が不可欠です。

①連携事例

【こども・若者政策課】

ひとり親世帯（児童扶養手当受給世帯）へ「こども食堂」のチラシを送付

【チャイケア】

チラシを見た方がこども食堂を利用 ⇒ 利用者との関係構築

利用者からの相談をケースごとに市担当課へつなぐ

②それぞれの役割

【こども・若者政策課】

行政情報（個人情報）の把握、庁内関係課とのパイプ役

【チャイケア】

利用者との信頼関係づくり（困りごとを聴き取り）

4. 事業スキームと役割分担

（1）事業内容

①大野城市こども食堂ネットワーク会議の開催

大野城市内のこども食堂を運営する団体から構成される「大野城市こども食堂ネットワーク会議」を開催し、こども食堂に関する情報提供や意見交換、衛生管理に関する研修、ボランティアや寄付金、寄付食材の募集・管理・分配、行政団体等への対応を行います。

○参加団体（目標）：43団体

②こども食堂コーディネーターの設置

こども食堂を地域に根ざした取組みとして大野城市内に広げていくために、こども食堂の運営に精通したコーディネーターを置き、地域や学校、行政などと運営に関する調整や相談、情報提供などきめ細やかに対応していきます。

（ア）こども食堂コーディネーターの役割

こども食堂の運営に関する情報の収集・助言など各種サポートを行います。市内のこども食堂の開催に合わせこども食堂を訪問し、相談事などに対応します。

（イ）活動頻度：週4回（半日／回）のコーディネート業務

③ひとり親家庭などへのサポート事業

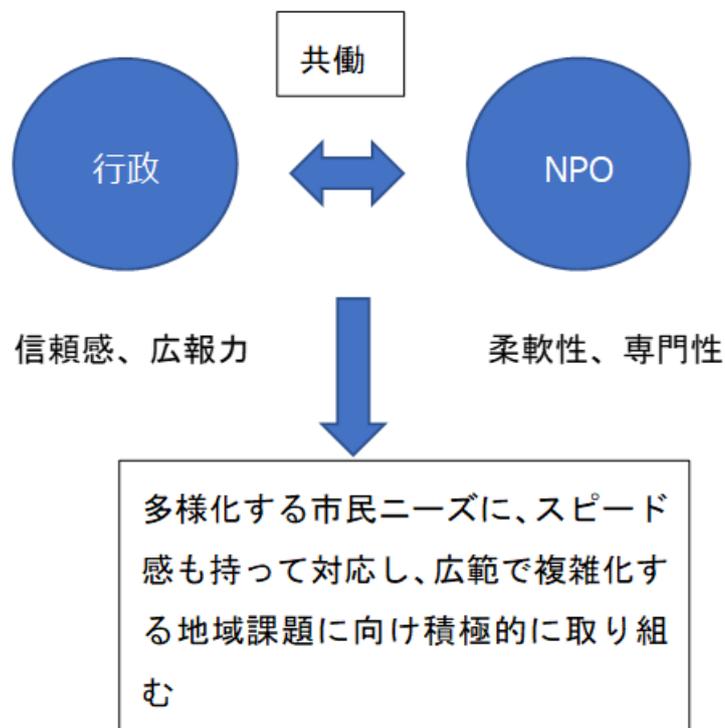
こども食堂やフードパントリーを通して、ひとり親家庭などへ食材を配布するサポート事業を実施します。また、宅食などを活用し、ひとり親家庭などの様子を見に行くアウトリーチ型の支援方法をとることによって、よりきめ細かな支援を実施します。

○活動頻度：週2回（半日／回）サポート業務（アウトリーチ型支援を含む）

④大野城市版「こども食堂マニュアル」の作成、活用

- 子どもの居場所としての「こども食堂」を開催するため、事業のポイントや、活動を長く続けるための工夫、新型コロナ等感染症予防の観点からの留意事項などの基本的な事項を記載。
- 参加者を見守る際に配慮してほしいこと、適切な対応方法など、スタッフとして気を付けてほしい事項を記載。
- 支援が必要な子どもや、様子が気になる親子を見つけた際に、どのように声掛けを行うか、適切な相談先・支援先へのつなぎ方などを記載（市の行政サービスをまとめた一覧表も添付）

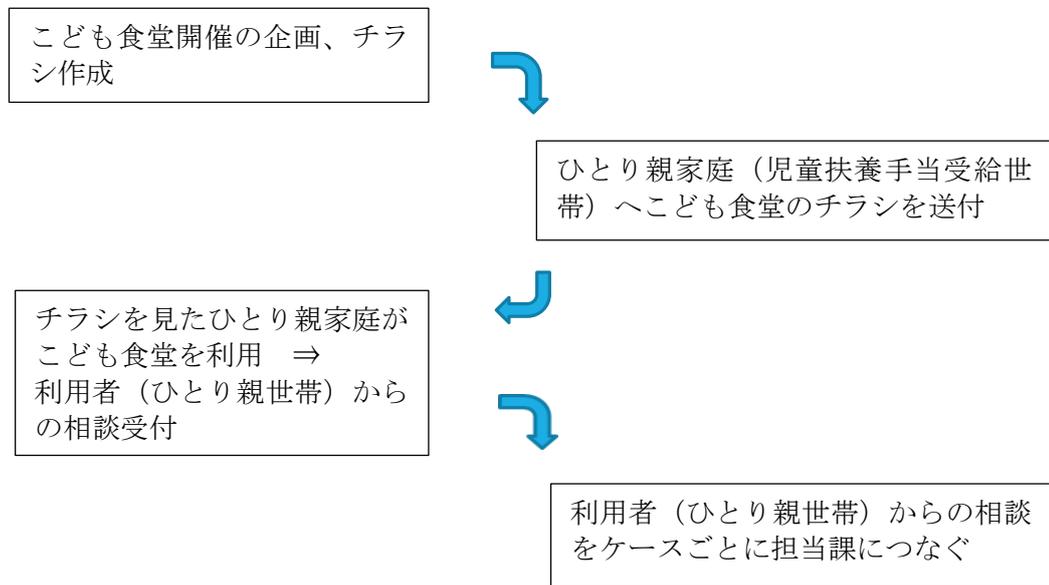
(2) 共働事業の基本スキーム



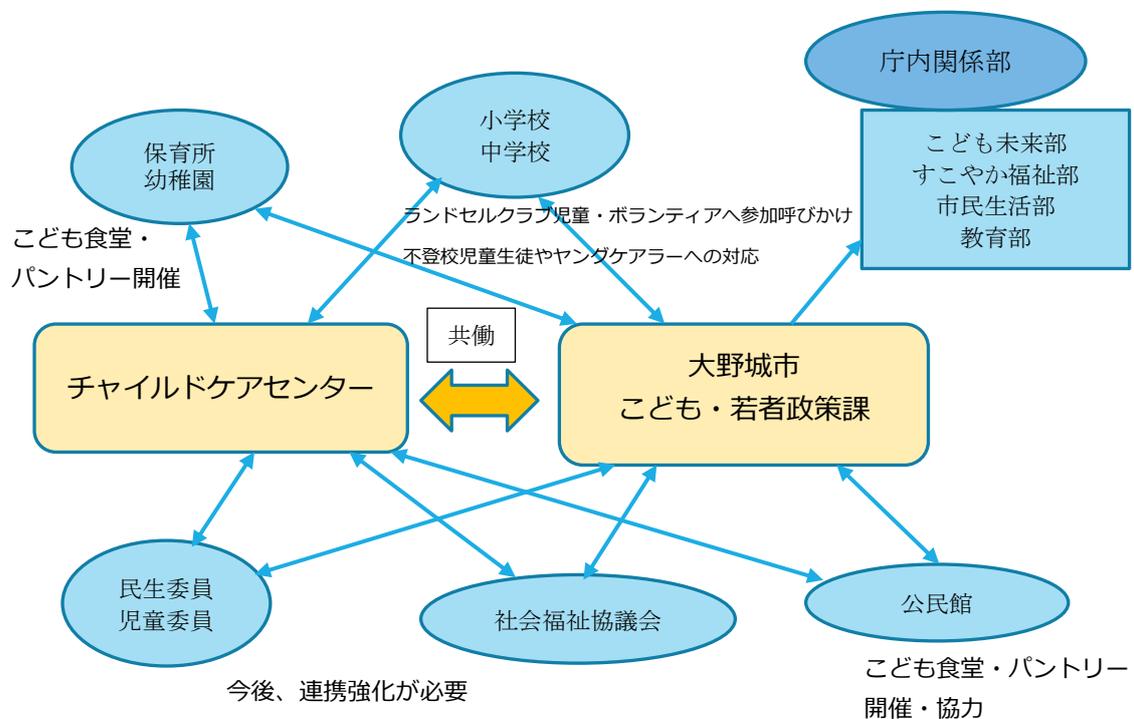
(3) ひとり親家庭へのサポート事業のスキーム

《チャイルドケアセンター》

《大野城市子ども・若者政策課》



(4) 本事業に関わる関係団体図（イメージ図）



5. 実績と成果

(1) 事業実績

①令和5年度(事業実施期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(ア) 実行委員会の開催

○実施回数：11回

○主な内容

- ・大野城市子ども食堂ネットワーク会議（内容決定、準備、振り返り）
- ・コーディネーター業務（活動内容、報告）
- ・ひとり親家庭へのサポート事業（事業の進め方、進捗確認）
- ・子ども食堂マニュアル（立案、決定、活用方法の検討）

(イ) 子ども食堂ネットワーク会議の開催

○第1回会議（令和5年7月24日（月））

- 【内容】
- ①発足式：コーディネーター任命、事業紹介
 - ②講演会：ななカフェ♡子ども食堂 代表による講演
 - ③意見交換会：子ども食堂運営者等の意見交換

【参加者】78名（区25名、一般53名）

○第2回会議（令和5年12月7日（木））

- 【内容】
- ①講話：大野城市防災危機管理専門官による講話
 - ②事例報告：平野台区長による「ふれあい平野食堂」報告

【参加者】24名（ネットワーク会議会員）

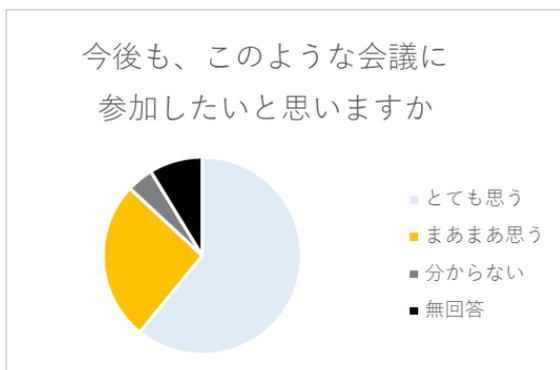
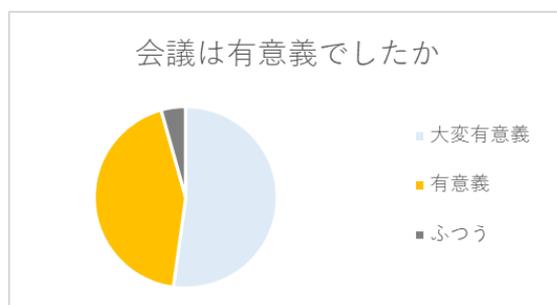
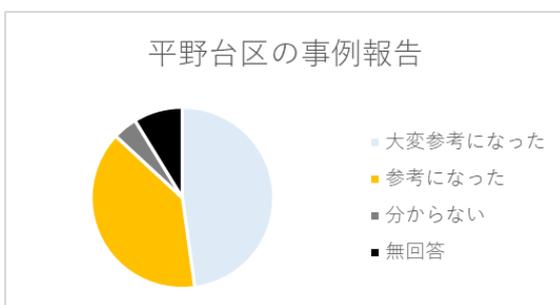
※会議開催にあたり共働で実施した内容

- ・ネットワーク会議の案内・周知
- ・区長会、食生活改善推進委員、民生児童委員正副会長会への説明
- ・各区に子ども食堂の取り組みの説明と協力依頼のため訪問
- ・マスコミに取材及び報道依頼、広報などによる周知





■参加者アンケートの結果（第2回ネットワーク会議）



(ウ) コーディネーターの活動 ※「活動の詳細」は別紙

主な活動	内容
こども食堂からの相談・訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・食材のリクエスト方法、開催時の注意点、衛生管理、情報発信の手段など学校や地域との連携、人員確保、資金確保、パントリー配布の対応、 ・新規開設、食堂再開に向けたヒアリング、情報収集 ・運営委員（食進会・民生委員・福祉部など）への説明
こども食堂マニュアルの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・発行に向けた内容調整
啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・食育フェスタでの啓発
視察対応等	<ul style="list-style-type: none"> ・嘉麻市公民館：本市の取組みについての講話 ・福岡県コラボステーション（NPOと協働の現場で学ぶ地域貢献活動ツアー）：こども食堂とフードバンクの取組みについての研修受入れ



(エ) ひとり親家庭へのサポート（おれんじパントリー）

子育て支援課が送付する11月の児童扶養手当の通知に、こども・若者政策課が作成したこども食堂やフードパントリーの案内通知とチラシを同封し、参加者を募集しました。その後、ひとり親世帯を対象とするフードパントリーを開催し、食材等を提供しました。

■実施日と参加者数について

	日時	会場	参加者数
令和5年12月	15日(金) 18:30~19:30	御笠川	39世帯
	16日(土) 10:00~12:30	つつじヶ丘	21世帯
令和6年2月	9日(金) 17:15~18:10	御笠川	43世帯
	14日(水) 17:00~18:30	つつじヶ丘	14世帯

■実施状況と今後の課題 ※「利用者の感想」は別紙

- ・児童扶養手当のお知らせと一緒に専用公式アカウントの告知を行い、登録者へ配布。
- ・配布日は小雨の降る中だったが、遠方よりバスに乗り、小さい赤ちゃんを抱っこしてつつじヶ丘までこられた方もいらっしゃった。
- ・参加者からの感想では、「(このような活動があったことを)もっと早く知りたかった」「こどもにも我慢させてばかりいます」など生活に直結したサポートであることを実感した。今後も継続してサポートする必要がある。
- ・初めての利用者が多く、コミュニケーションが図れていないため、回を重ねて信頼関係を構築し、必要ならばアウトリーチにつなぎたい。



(案内チラシ)



(受け取りの様子)



(フードパントリーの食品)

(オ) こども食堂マニュアルの作成

筑紫地区こども食堂ネットワーク作成のこども食堂マニュアルをベースとして大野城市版「こども食堂マニュアル」作成しました。

「困りごとを抱えた子ども」などの相談先について、行政内外の機関と調整を図り、マニュアルへ記載しています。

【大野城市版「こども食堂マニュアル」(一部)】



(カ) 大野城市重層的支援会議【こども・若者政策課】

福祉、介護、人権などの関係課で構成する大野城市重層的支援会議において、ケースごとに情報共有と必要な支援の協議を行っています。こども食堂の担当（こども・若者政策課）もこの会議の構成員となっており、こども食堂等からの支援が必要なケースについても検討できる体制をとっています。

②令和6年度（事業実施期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（ア）実行委員会の開催について

○実施回数：8回

○主な内容

- ・大野城市子ども食堂ネットワーク会議（内容検討・決定、準備、振り返り）
- ・コーディネーター業務（活動内容、報告）
- ・ひとり親家庭へのサポート事業（進捗確認、場所の検討）
- ・子ども食堂マップの作成（内容の検討、データ収集）
- ・統合補助金を活用した公民館の子ども食堂について（情報共有）
- ・気になる家庭についての情報共有と対応の検討

（イ）子ども食堂ネットワーク会議の開催について

○第3回会議（令和6年7月24日（水））

【場所】 大野城市総合福祉センター 大会議室

【内容】 ①基調講演：福岡県子ども食堂ネットワーク代表による講演

②意見交換会：子ども食堂運営者等の意見交換

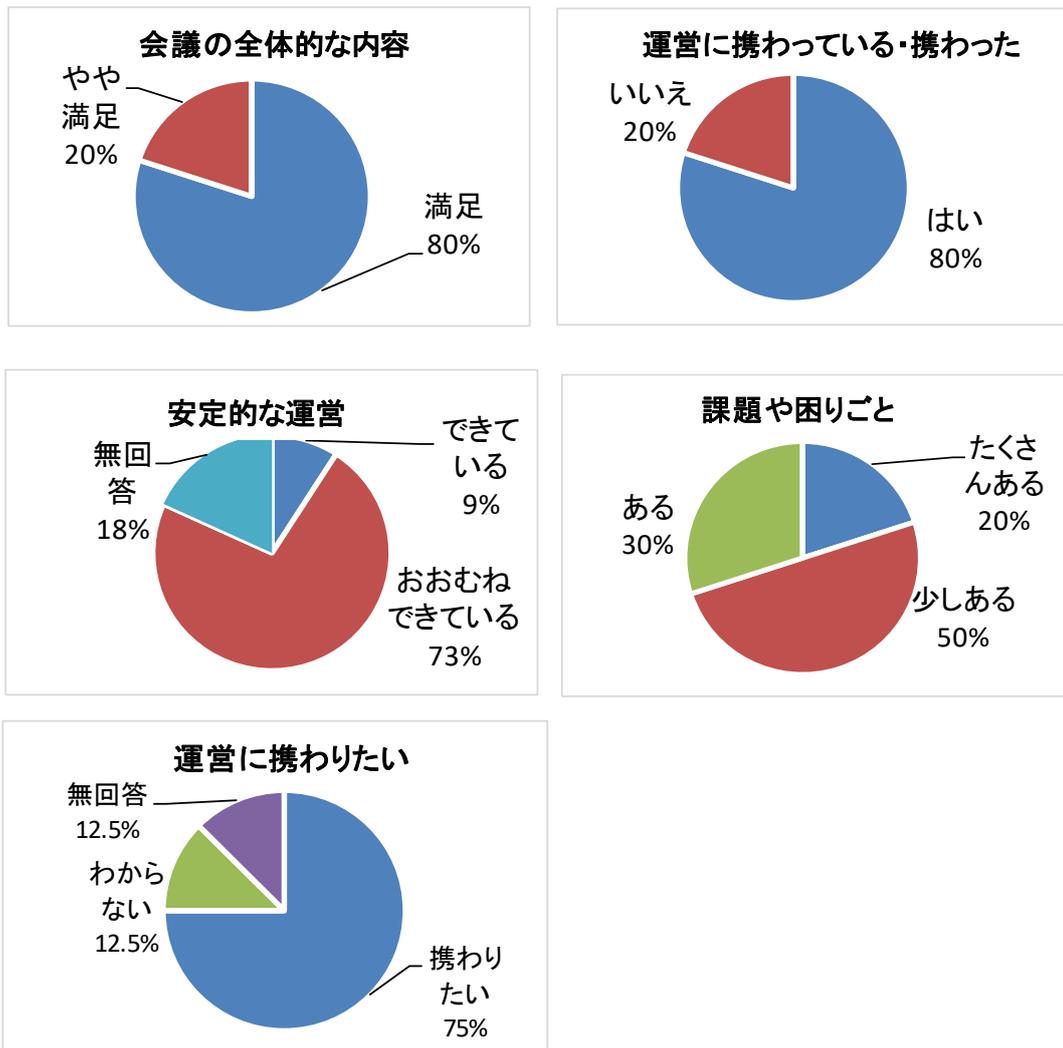
【参加者】29名（ネットワーク会議会員）

※会議開催にあたり共働で実施した内容

- ・ネットワーク会議の案内及び周知
- ・区長会、食生活改善推進委員、民生児童委員に説明
- ・各区に子ども食堂の取り組みの説明と協力依頼のため訪問



■参加者アンケートの結果(第3回ネットワーク会議)



- ・会議全体の内容について、8割が「満足」、2割が「やや満足」と回答。
- ・参加者の8割が「こども食堂の運営に携わっている又は携わったことがある」と回答。
- ・こども食堂の安定的な運営について、8割が「できている」または「おおむねできている」と回答。
- ・こども食堂の運営にあたっての課題や困りごとについて、2割が「たくさんある」、5割が「少しある」と回答。
- ・「今後、こども食堂の運営に携わりたい」と75%が回答。

○第4回会議（令和7年2月14日（金））

【場所】 大野城市総合福祉センター 大会議室

【内容】

①こども食堂事例報告

・「おおのじょう かわらだふれあい食堂」（瓦田公民館）

副区長 藤野 進さん

・「おおのじょう 中こども食堂」（中公民館）会計 川野直美さん

・「Place Amigo（プレイス・アミーゴ）」（NPO 法人共働のまち大野城）

事業部長 牧 知江さん、事業部班長 川口近子さん

②グループに分かれての意見交換会：こども食堂運営者等の意見交換

【参加者】 43名（ネットワーク会議会員及びスタッフ）

※会議開催にあたり共働で実施した内容

- ・ネットワーク会議の案内及び周知
- ・各区にこども食堂の取り組みの説明と協力依頼のため訪問

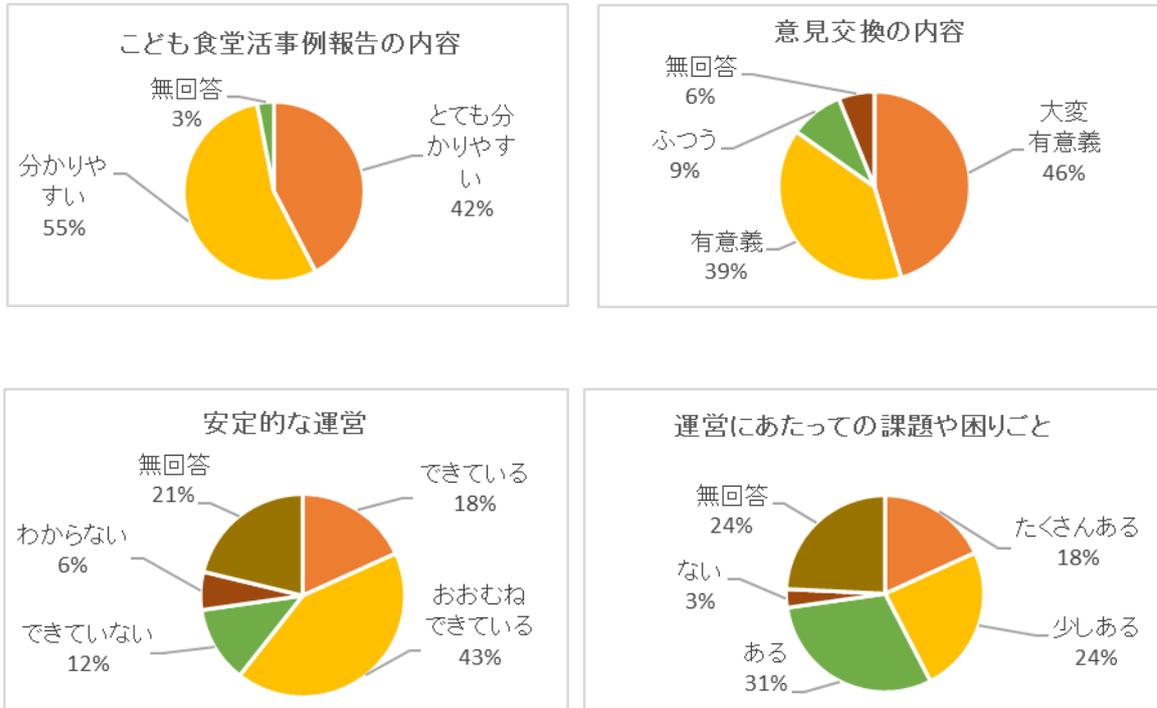
〈右：会長挨拶、中：事例発表〉



〈右：グループによる意見交換〉



■参加者アンケートの結果（第4回ネットワーク会議）



- ・ 事例報告の内容について 95%以上が分かりやすかったと評価
- ・ 意見交換について 85%が有意義だったと回答
- ・ こども食堂の安定的な運営について 61%が「できている」「おおむねできている」と回答。ただし「できていない」と回答した人が 12%存在。前回調査（令和6年7月実施）では0%であった。「できていない」理由としては、物価高騰による運営への圧迫等が考えられるが、明確な理由を確認し、その対策を検討する必要がある。

(ウ)コーディネーターの活動 ※「活動の詳細」は別紙

主な活動	内容
こども食堂からの 相談・訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館での統合補助金を活用した食堂の開催相談 ・ こども食堂開催時の訪問・立ち合い ・ リクエスト食材の引き渡し、使用する食器の確認(毎週) ・ カフェ形式での開催提案、情報提供 ・ 衛生管理指導 ・ 情報発信の手段の情報提供 ・ 地域運営メンバー向けの説明会の開催 ・ 人員確保のための情報提供 ・ こども食堂開催後の報告管理
こども食堂マップ の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作成に向けた情報発信・データ収集 ・ ホームページ作成に向けた打合せ
パントリーの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月第二木曜日開催 ・ 食材リクエスト方法の情報提供 ・ 福岡県こども食堂応援プロジェクト食材支援対応
視察対応等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嘉麻市：現地（こども食堂）の視察受入れ ・ 福岡県コラボステーション地域貢献ツアー視察受入 ・ 県立高校の研究発表のためのボランティア活動受入 ・ 大野城市区長会対応 ・ 千葉県市原市議会視察対応 ・ こども食堂釜山との国際交流事業視察受入れ対応
啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント開催時のこども食堂啓発活動
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共働事業実行委員会出席・事業報告（毎月） ・ 大野城市こども食堂ネットワーク会議準備・開催

【こども食堂開催相談・訪問】



【こども食堂に使用する食材の引き渡し】



【こども食堂再開にむけた地域メンバーへの説明】



【こども食堂実施に向けた容器確認】



【福岡県こども食堂応援プロジェクト県産品受入】



【こども食堂食材配布】



【他市こども食堂運営者視察受入】



【市原市議会団視察対応】



(エ) ひとり親家庭へのサポート (おれんじパントリー)

■実施日と参加者数について

	日時	会場	参加者数
令和6年5月	10日(金) 17:40~18:40	御笠川	43世帯
	14日(火)~17日(金) 9:00~17:00	つつじヶ丘	24世帯
令和6年7月	16日(火)~19日(金) 9:00~17:00	つつじヶ丘	39世帯
令和6年8月	26日(月)16:30~17:00	つつじヶ丘	16世帯
令和6年9月	18日(水)~20日(金) 9:00~17:00	つつじヶ丘	38世帯
令和6年10月	18日(水)~20日(金) 9:00~17:00	つつじヶ丘	31世帯
	18日(金)14:30~16:30	すこやか交流 プラザ	19世帯
令和6年11月	20日(水)~22日(金) 9:00~17:00	つつじヶ丘	30世帯
	22日(金)14:30~16:30	すこやか交流 プラザ	11世帯
令和6年12月	18日(水)~20日(金) 9:00~17:00	つつじヶ丘	37世帯
	18日(水)14:30~16:30	すこやか交流 プラザ	19世帯
	26日(木)11:30~12:30	つつじヶ丘 (餃子の王将)	25個
令和7年1月	15日(水)~17日(金) 9:00~17:00	つつじヶ丘	40世帯
	17日(金)9:00~17:00	すこやか交流 プラザ	26世帯
令和7年2月	19日(水)~21日(金) 9:00~17:00	つつじヶ丘	31世帯
	19日(水)9:00~17:00	すこやか交流 プラザ	34世帯
令和7年3月	19日(水)	つつじヶ丘	33世帯
	21日(金)		
	25日(火)	すこやか交流 プラザ	27世帯

■実施状況と今後の課題 ※「利用者の感想」は別紙

・参加者は、物価高騰等で生活が厳しくなっている方が多く、パントリーの企画と取組みを喜ばれ、「救いの場所」との感謝の声もあがっている。

・御笠川会場が使えなくなり、7月からはつつじヶ丘会場 1か所での実施となったことで、会場が遠いため利用を断念する方がでている。

・南地区以外に開催できる会場が必要なため、すこやか交流プラザ 3階のこども・若者政策課の窓口で令和6年10月から実施。

・食材の確保について、現在はふくおか筑紫フードバンクから調達している。

しかし、年々企業からふくおか筑紫フードバンクへの寄付食材が減少していることから今後、食材の確保が難しくなることが課題となる。

〈つつじヶ丘会場配付の様子〉



〈フードパントリーの食品〉

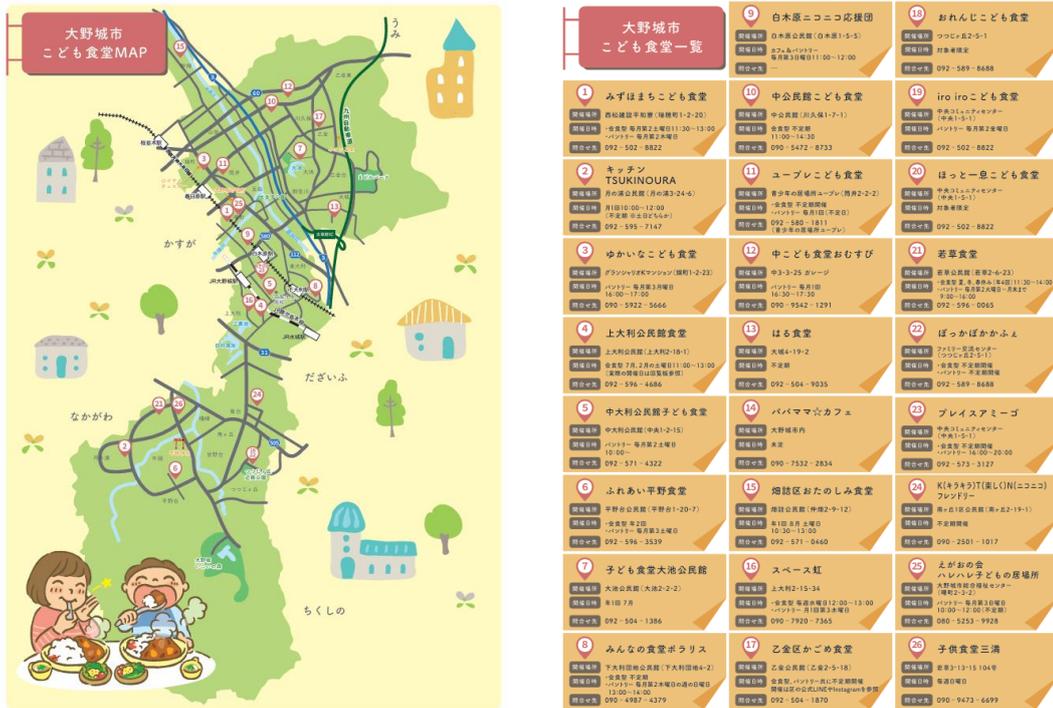
〈すこやか交流プラザ配付の様子〉



(オ)こども食堂マップの作成

市内で開催しているこども食堂を示した「こども食堂マップ」を作成するため、必要なデータの収集を行いました。(基本データは、こども食堂名、開催場所、開催日時、参加費、問い合わせ先等。)

作成したマップ(イメージ図)は下記の通り。作成後は、市ホームページなどで情報発信します。



(カ)公民館を活用したこどもの居場所づくりにつながるこども食堂の実施(新規)

大野城市には各区に公民館が置かれており、全部で28カ所になります。公民館が地域の子どもから高齢者までが集い、気軽に交流できる場となるよう、区の役員をはじめ多くのボランティアが活動しています。

本年度(令和6年度)、市では、地域活動統合補助金のメニューの一つに、公民館におけるこどもの居場所づくりを推進するための「こども食堂等推進事業補助金」が追加されました。

この補助金をきっかけに、こども食堂等の開催への各区の意識が高まったことから、材料の調達や運営などについて、共働事業の中で選任されたコーディネーターが、区の実情に合ったこども食堂開催の支援を行いました。令和6年度は10か所の公民館からの相談を受けました。

この補助金を活用して、公民館と民間のこども食堂実施団体との共催によるこども食堂が開催されるなど、新たなつながりもうまわれています。

(2) 目標と成果

	R5 年度末 (R6. 7 月 調査)	R6 年度末	R7 年度末
目標①運営の課題が減り、安定的に運営ができていると考えるこども食堂の割合	82%	61% (R7. 2 調査)	85%
目標②大野城市版「こども食堂マニュアル」の作成	作成	更新 (問い合わせ先等を更新)	更新
目標③サポート事業でつながることによって、安心感を得たひとり親世帯等の割合	74%	80% (R7 年度初に調査予定)	85%
目標④こども食堂マップの作成(新規)	—	作成	更新

(3) 新たに見えてきた課題

○こども食堂の安定的な運営

こども食堂の運営に課題を抱え、安定的な運営ができていない団体が増えていることから、その理由を明確にし、対策を講じる必要があります。

こども食堂を長く継続して運営していくためには、人材と資金の確保が不可欠です。食堂を運営する団体に対するボランティア活動についての助言や、運営資金の調達などの支援方法を、検討する必要があります。

○ひとり親家庭などへのサポート

ひとり親家庭などへのサポートとして、宅食や家庭訪問以外に、さまざまな形でのアウトリーチ型の支援方法を検討する必要があります。出向きやすい場所でのフードパントリーの実施、重層的支援会議からの情報提供による個別の対応など、必要とするサービスや情報を対象者に直接届ける取組について、さらに検討し、実施します。

○公民館を活用したこどもの居場所づくりにつながるこども食堂の実施

公民館でのこども食堂等の実施が困難な区に対して、地域の実情に合わせたアプローチ方法を検討し、こども食堂等の開催に向けた支援を行うことで、こどもの居場所づくりを推進する必要があります。

○制度の隙間を埋める支援

行政が行う生活困窮世帯への事業は、生活保護や各種手当・給付などがあります。しかし各制度は対象が明確に決められているため、経済的に困窮し、最低限の生活を維持することができなくなるおそれのある家庭（生活保護受給者以外の失業者、多重債務者、ニート、引きこもり等）や、制度や申請方法を知らない家庭など、必要な支援が受けられず貧困状態を解消できない家庭が埋もれていると考えられます。

こどもの貧困対策として、支援を必要とするこどもに気づくための取組みや、行政が行う支援制度の対象とならない子育て家庭について、民間や地域と連携して取組みを検討する必要があります。

6. 令和7年度の事業内容

本事業の目的である「地域のみんなで子どもを守り、育てる社会」をつくるため、子どもの居場所としてのこども食堂を通して子どもの貧困問題の解消を目指して、最終年度である令和7年度は次の事業を行います。

(1) こども食堂の運営支援

① 大野城市こども食堂ネットワーク会議の開催

こども食堂に関する情報提供や食堂運営者等の意見交換に加え、支援が必要な子への気づきやアプローチの仕方等に関する研修を行います。

② こども食堂コーディネーター業務

こども食堂コーディネーターは、食堂運営に関する情報の収集・助言、相談対応を行うとともに、安定的な運営ができていない団体一つ一つに困りごとを丁寧に取り、こども・若者政策課とともに課題解決の方策を検討します。

(2) ひとり親家庭などへのサポート事業

ひとり親家庭等の支援事業を所管する子育て支援課と連携し、おれんじパントリーの継続的な実施など、必要なサービスや情報を対象者に届ける仕組みをつくりまします。

(3) こども食堂マニュアル・こども食堂マップの更新

作成した「こども食堂マニュアル」と「こども食堂マップ」をホームページなどで情報発信するとともに、こども食堂を運営する団体と連携しながら、随時内容の更新を行います。

(4) 公民館を活用したこどもの居場所づくりにつながるこども食堂の実施

こども食堂等未実施区への継続的なアプローチと、前年度実績の検証及び次年度以降の実施についての検討を行います。

(5) 制度の隙間を埋める支援

行政だけでは支援が届けられない「制度の隙間」を埋めるため、支援が必要な子への気づきやアプローチの仕方等に関する研修の実施のほか、民間や地域と連携して、困りごとを抱えたこどもなどに対する支援方法を検討します。

7. 将来展望

令和5年12月に閣議決定された「こども大綱」では、「こどもの貧困を解消し、貧困による困難を、こどもたちが強いられることがないような社会をつくる」ことが明記されました。

大野城市では、「夢とみらいのこどもプランⅣ」において、貧困状況にあるこども・若者及び子育て当事者が、社会的孤立に陥ることがないように、状況や課題の把握に努め、教育の支援、生活の安定に資するための支援、若者や保護者の就労支援、経済的支援を始めとしたさまざまな観点から、関係機関と連携し、こどもの貧困対策に取り組んでいくこととしています。

○こどもの貧困問題に対する市の取り組みと本事業のアプローチ

行政が対象とする貧困対策は、生活保護や各種手当・給付など、ある条件に当てはまった人に対する事業となります。しかし、現状は、その条件に当てはまらないけれど、経済的に困窮し、食べることに困っている「隠れた貧困」のこどもや、経済的には困っていないが保護者が多忙で親子のふれあいの時間や体験の時間が取れず「心の貧困」となるこどもが存在しています。

こども食堂は、対象を限定しないため、食とふれあいを求めてこどもから高齢者まで集う場となっています。行政では難しい「隠れた貧困」や「心の貧困」のこどもたちにも食べ物や支援を届けることができる機会となります。

今後、市内のこども食堂が、長く継続して運営できることや、実施回数を増やし活発化することで貧困の家庭や行政の手が届かない家庭につなげていく仕組みを構築していきます。

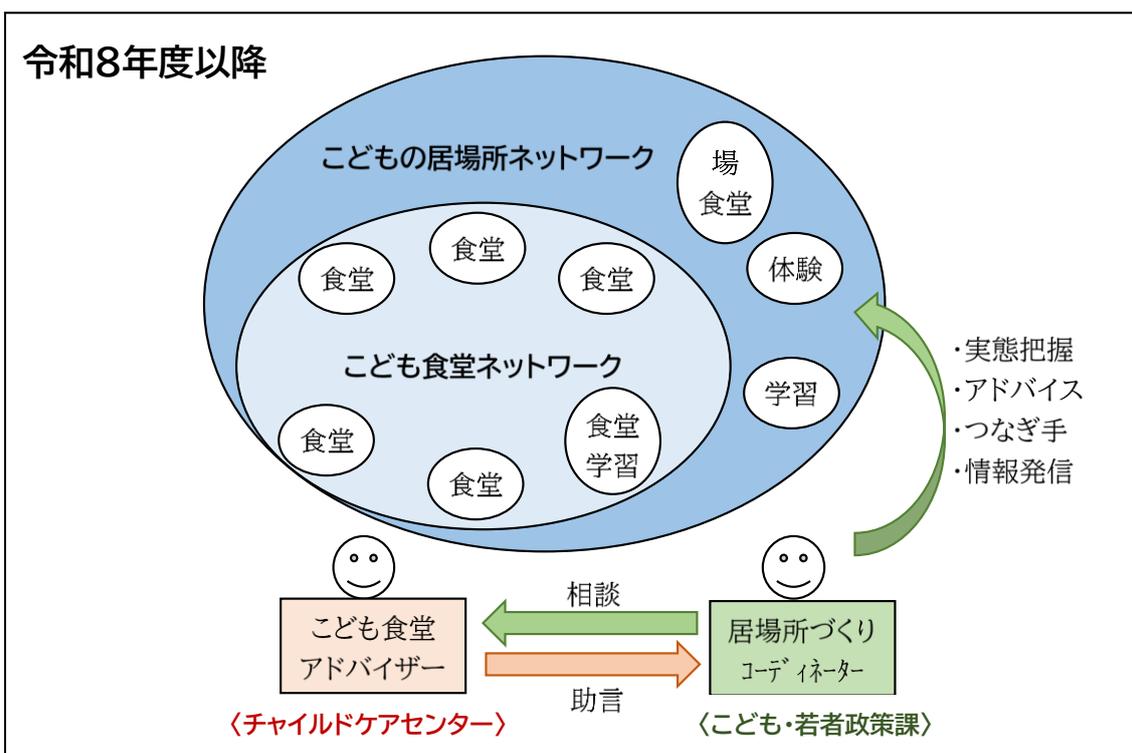
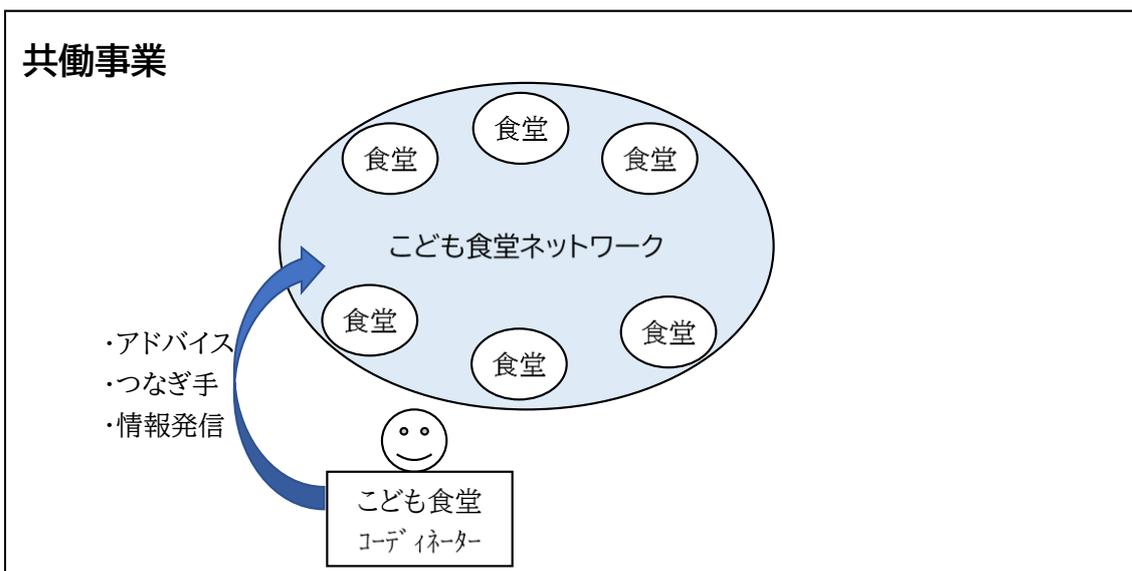
○「こどもの居場所づくり」

こどもたちは、安心できる場所や機会を多く持っているほど今の充実感など自己認識が高くなる傾向にあることから、こどもに選ばれる居場所を増やす取組を行います。

その際には、民間の強みである地域の身近な居場所づくりに必要なノウハウとネットワークを活用し、市は各種制度へのつなぎや情報発信を行うなど、それぞれの強みを生かした取組を行っていきます。

こどもの居場所は、人とのつながりや食・学習・体験などの機会を通じて、自己肯定感を育み、貧困対策や孤独・孤立の防止の役割も担うことから、今後は、こどもの居場所の一つであるこども食堂に加え、こども自身がほっとできる多様な居場所を増やすことで、様々な課題や事情の解消につなげていきたいと考えます。

現在の共働事業と今後の「こどもの居場所づくり」のイメージ



- こども食堂ネットワークを「こどもの居場所ネットワーク」に拡大し、こども食堂に加え、学習や体験など多様な居場所を増やします。
- 市は、様々な担い手による多様な居場所を増やすため、居場所づくりコーディネーターを設置し、こどもの居場所の運営に関する実態把握、団体へのアドバイスやつなぎ手、情報発信を行います。
- チャイルドケアセンターは、こども食堂アドバイザーとして、こども食堂の運営に関する相談の助言等を行う役割を担います。

コーディネーターの活動報告（R6.4～9）

○令和6年4月～6月活動実績

㊦公民館訪問・対応

大野城市市内の公民館・また個人のこども食堂団体への連絡、およびご要望に併せ運営者の方々へ説明を行うため訪問を適宜行った。

公民館に関しては、大野城市からの活動支援金が出たことにより、何かしらの使用を考えているが何から始めたらよいか等のご相談が多く入ってきている状況。

また、月1回のエフコープパントリーやリクエスト食材の引き渡しの際には、活動されている各団体の皆さんと直接お顔を合わせ、直近の団体の様子や課題・不安要素などの共有を行った。

【若草公民館訪問 R6.5.28】



【食材引渡しの様子】



【中公民館訪問 R6.6.4】

開催に向けて登録確認と食材リクエストの方法についてなど打ち合わせを行った。

すでに事務スタッフの方がチラシや会の内容など素案をまとめてくださっていてスムーズに開催までの段取りを確認することができた。

当日使用予定の食器の確認や会場の確認等も同時に行った。



④パントリー対応（毎月第二木曜日 R6.4/11.5/9.6/13、エフコープ太宰府支所）



⑦こども食堂視察受入れ（嘉麻市）

以前大野城市にお問い合わせが入り、対応を行った嘉麻市のこども食堂団体の方が直接こども食堂の開催の様子を視察してほしいとのご要望を受け、受け入れを行った。

他市の抱えている課題を共有させていただき、ともに対策を思案することで参考になることも多く、有意義な時間となった。



⑤その他

- ・ 4/23 共働事業について区長会での説明の際の立ち合い（特にご質問なし）
- ・ 5/24 共働事業の事業報告会
- ・ 6/24 共働事業実行委員会

○令和6年7月～9月活動実績

㊦公民館訪問・対応

各公民館が地域の行事に併せたイベントとして、夏休み期間中にこども食堂・こども食堂カフェの開催を予定されているため、それにまつわる対応が増加している。

【南ヶ丘1区公民館プレゼン訪問 R6.7.3】



【上大利公民館こども食堂訪問 R6.7.13】

・地域の各部署の方々の役割分担がしっかりされていて広い公民館を有効に使用されており、食事の順番がくるまで工作のワークショップが行われていた。早々に予想食数が心配されるほどの来館者で大盛況の様子だった。



【月の浦公民館こども食堂訪問 R6.8.24】

・前日に流しそうめんのメニューが衛生管理的に少々不安になった為、アドバイスを共有した。当日は流れてくるそうめんをすくう箸と食する際のフォークを別にされており、衛生に配慮した場面を確認できた。地域のこども会やシニアクラブなど普段から公民館活動へ積極的に参加される方も多いと聞いたが、運営スタッフの楽しそうな笑顔が大変印象的だった。2階には射的やうちわづくりなど体験コーナーの設置もあり、たくさんの子ども達と区長さんが一緒に楽しんでいる様子を見ることができた。



【中公民館子ども食堂訪問 R6.8.18】

・随分開催期間が空いて久しぶりの開催となったが、134名の参加があった。
食事だけではなく、地域の方々の、むかし遊びコーナーや参加者のミッションカードなども設定されており、楽しませる工夫が盛りだくさんの会となったようだった。
受付や掲示物等も判りやすく掲示してあり、相当な準備をされた様子が見えた。



【牛頸公民館こども食堂訪問 R6.8.24】

- ・5名の調理班の方々は手際よく準備を進めておられた。食事の時間までは大きなスクリーンで映画鑑賞が行われていた。
- ・前日から竹の伐採をし、傾斜のバランスを考えられたうえで、流しそうめんの土台が出来上っていた。平野小のおやじの会のメンバーが7～8名運営に関わっておられ重要な戦力となられていた。



【若草公民館こども食堂訪問 R6.8.25】

- ・初めての食堂開催だったが、告知が足りなかったせいか参加者の出足が遅かった。調理は寄贈品を上手く活用され、おいしいカレーが出来上がっていた。



④パントリー対応（毎月第二木曜日 R6.7/11.9/12 及び緊急パントリー8/6、エフコープ太宰府支所）



⑤大野城市子ども食堂ネットワーク会議 【R6.7.24】



⑥その他

- ・ 7/11.9/12. エフコープパントリー
- ・ 7/18 共働提案事業実行委員会
- ・ 8/5 南ヶ丘2区・三満子ども食堂訪問
- ・ 8/6 緊急パントリー
- ・ 8/21 共働提案事業実行委員会

コーディネーターの活動報告（R6.10～12）

○公民館訪問・対応

大野城市市内の公民館・また個人のこども食堂団体への連絡、およびご要望に併せ運営者の方々へ説明を行うため訪問を適宜行っている。

公民館に関しては、大野城市からの「こども食堂運営費補助金」が出たことにより、何かしらの運用を考えているが何から始めたらよいか等のご相談が多く入ってきている状況にある。さらに、月1回のFコープパントリーやリクエスト食材の引き渡しの際には、活動されている各団体の皆さんと直接顔を合わせ、直近の団体の様子や課題・不安要素などの共有を行っているが、特に民間で運営されている団体は運営費・食材費等大変苦慮されている様子がみえ、継続することに不安を抱えておられる方も多い。

【東大利公民館対応 R6.10.9】



【食材引渡しの様子】



【春日高校視察受入 R6.10.11】

大野城市のこども食堂への取り組みについて福岡県立春日高校の生徒さんの視察受入れを行った。保健委員の研究発表材料として「ワンヘルス教育のとりくみについて～食に関すること～」について大野城市を含むこども食堂の取り組み全般について説明を行った。



【F コープパントリー R6.10/14.11/14.12/12】

毎月第二木曜日に、F コープ大宰府支所において、こども食堂向けのパントリーを行っている。最近、集まってくる寄贈品が減少してきており、食堂開催に不可欠な野菜や肉は限られた量をみんなで分配している状況になっており、これからはそれぞれの団体へ分配する量がより減少してくる事が懸念される。

食堂開催には、人・場所・資金（食材）が不可欠だがフードバンクとしても、こども食堂の運営にむけ、何とか対応できるよう苦慮している状況になってきており。今後、食材の寄贈量減に対する対策が急務であると考えている。



【南ヶ丘1区公民館対応 R6.10.8】

以前よりプレゼンを行い、説明会でこども食堂へのご理解を深めていただき12月の開催に向けて具体的な説明を行った。心配されていた運営の面も地域のこども会などと上手に連携されており、関係されている小学生も運営メンバーとして登録された。

開催予定は、文庫のクリスマス会、もちつき大会とコラボで開催予定となっている。



【乙金東公民館対応 R6.10.18】

今回、「こども食堂運営費補助金」をきっかけにこども食堂を運用するためのお問い合わせをいただき、現在工事中の公民館に代わり、仮施設にて説明を行った。

以前、公民館行事としてお弁当を製作した際やこども食堂でとりぼっかけを作って開催した時のスタッフさんが運営メンバーにいらっしゃるため、衛生面など運営は問題なく実施できると感じた。

開催は3月を予定されており、すでに近隣のこども食堂へ出向き相談に乗ってもらうような関係性も出来上がっていた。当日は100食のカレーを予定されている。



【市原市議会団対応 R6.10.30】

千葉県市原市の市議会視察に参加させていただき、こども食堂やふくおか筑紫フードバンクについての質問にお答えした。



○その他

- ・10/2 コミュニティ文化課・こども若者政策課ふりかえり面談会
- ・10/16 共働事業面談会
- ・11/1 共働事業実行委員会

11/14【木】11月パントリー

西日本シティ銀行様の行員運動会において、1品持ち寄りのフードドライブの商品の寄贈をいただき、各団体へ分配をした。寄贈量減少の今、ありがたい大量寄贈となりこども食堂運営者に大変喜んでいただいた。

その後のみずほまちパントリー開催時において、早速配布を行ったところ参加者からも「値段が上がっているなので以前は変えていた商品が買えず寂しい気がしていたので大変助かる。」「月一回のこのパントリーの商品を基準に他のものを追加購入して節約している」など多くの声が寄せられた。



【11月こども食堂】

体験学習の受入をきっかけに、春日高校の生徒が毎回みずほまちこども食堂のボランティアに入ってくれるようになっている。今後も学校に働きかけ、ボランティアの人数を厚くできるように検討するつもりでいる。食堂に参加するこども達の中には自分もボランティアをやりたいと考えている子が多く、少しずつボランティアスタッフを増員することで継続した運営ができると考えている。



【こども食堂釜山国際交流】

福岡県こども食堂ネットワーク主催の釜山の学生とのこども食堂を通じた国際交流の視察の対応を行った。初日はフォーラムに参加し、釜山のこども食堂の現状や傾向など知ることができた。2日目はみずほまちこども食堂にお招きし、大野城市でのこども食堂の活動の内容やコーディネーターの担う役割等についても説明を行い、社会福祉学を学んでおられる学生をいうこともあり熱心にメモを取りながら日本のこども食堂について理解を深めていただいた。



【福岡県こども食堂応援P J】

昨年度に引き続き、福岡県こども食堂ネットワークが事務局となり、クラウドファンディングで集まった応援金を県産米・県産肉に変えこども食堂へ配布する活動のとりまとめを行った。各こども食堂運営者がそれぞれ申込を行い12月12日のFコープパントリー時に引き取りにきていただいた。

食品の寄贈量が目に見えて減少している現在、継続した食堂運営を心配しておられる団体も多く今回の米・精肉の寄贈で12月の食堂ができますという団体も多く聞かれた。

会食型のこども食堂を実施している団体については、やはり食材がなければ購入して開催するしかなく、予算がない場合持ち出しで実施をされているようだが、その場合継続した実施は厳しい状況も理解できる為、何らかの予算もしくは食材提供ができるよう検討が必要だと考えている。



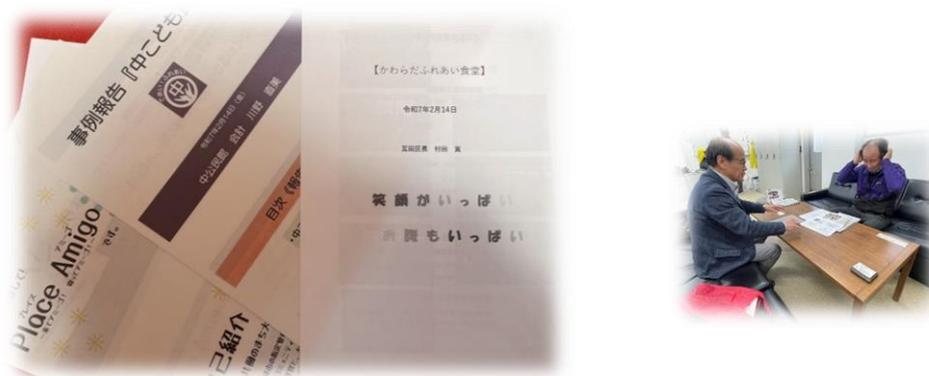
コーディネーターの活動報告（R7.1～3）

○公民館訪問・対応 R7.1.16～17

2月に開催する大野城市子ども食堂ネットワーク会議の登壇打合せに瓦田公民館、中公民館、中央コミュニティセンターへご挨拶に出向いた。

どの公民館・団体も快く講話をお引き受けくださり、会の目的などに沿った資料作りをお約束していただいた。

【R7.1.16 瓦田公民館 藤野さんとの打合せ】



○共働事業提案 実行委員会

・1月10日

2月14日に日程が決定している大野城市子ども食堂ネットワーク会議の打合せ・準備にむけた打合せを行った。プログラム案・当日の担当割などについての共有をおこなった。

・1月29日

ネットワーク会議の最終打合せを実施。意見交換の際のテーマを決定した。現段階での出席人数の確認、アンケート内容についての協議を行った。

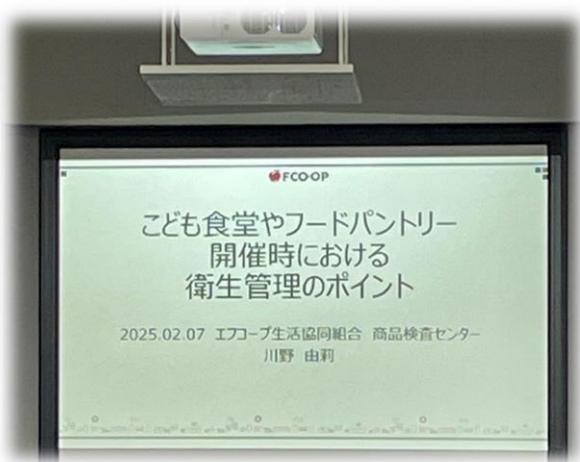
○子ども食堂ネットワーク ホームページ打合せ（R7.2.4）

共働事業の成果物のひとつでもある、子ども食堂の所在地がわかるホームページを作成するにあたり、業者との1度目の打合せを行った。

今度は各子ども食堂団体の情報の収集・精査・確認を行い、だれでも気軽に立ち寄れる居場所の情報発信となるようなページを心がけて制作を行う。

○フードバンクフォーラム（R7.2.7）

継続した子ども食堂支援のためには不可欠となる、食材寄贈支援について、企業連携の取り組みのフードバンクフォーラムに参加した。同時開催された、衛生学習会では、食堂開催時の衛生管理について具体的な事例に基づいた講話をいただき大変参考になった。



○Fコープパントリー 【R7.1.9.2.13 3.13 実施】

このFコープパントリーの際に、各団体と顔を合わせ団体の状況を共有できる貴重な機会をなっていることもありそれぞれの団体の状況把握に大切な取り組みとなっている。
有できる貴重な機会をなっていることもありそれぞれの団体の状況把握に大切な取り組みとなっている。



【大野城市子ども食堂ネットワーク会議 R7.2.14】

大野城市の子ども食堂ネットワーク会議を開催した。それぞれの団体の活動事例や取り組みについて発表していただいた。どの時間も皆さん熱心に耳を傾けてくださり、質問も多く飛び交い、大野城市内の子ども食堂の今後の発展の可能性を強く感じた。

これからは私どもの団体やコーディネーターへお問い合わせいただくだけでなく、団体同士の横のつながりを強くすることにより、ボランティアの共有や、課題解決など、スムーズな運営を進めていくことができると思った。またこういった機会を設けることは、大変有意義だと改めて感じた。

【事例発表団体のみなさん】



【グループでの意見交換】

